

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2021年11月8日

【四半期会計期間】 第53期第2四半期(自 2021年7月1日 至 2021年9月30日)

【会社名】 ファナック株式会社

【英訳名】 FANUC CORPORATION

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 山口 賢治

【本店の所在の場所】 山梨県南都留郡忍野村忍草字古馬場3580番地

【電話番号】 0555-84-5555

【事務連絡者氏名】 執行役員 岡田 俊哉

【最寄りの連絡場所】 山梨県南都留郡忍野村忍草字古馬場3580番地

【電話番号】 0555-84-5555

【事務連絡者氏名】 執行役員 岡田 俊哉

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		2020年度 第2四半期 連結累計期間	2021年度 第2四半期 連結累計期間	2020年度
会計期間		自 2020年4月1日 至 2020年9月30日	自 2021年4月1日 至 2021年9月30日	自 2020年4月1日 至 2021年3月31日
売上高	(百万円)	230,411	351,490	551,287
経常利益	(百万円)	38,220	107,822	128,744
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	(百万円)	28,112	78,649	94,012
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	34,359	86,859	124,079
純資産額	(百万円)	1,363,826	1,482,774	1,435,554
総資産額	(百万円)	1,503,237	1,674,288	1,625,191
1株当たり四半期(当期) 純利益金額	(円)	146.55	410.03	490.11
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)			
自己資本比率	(%)	90.2	87.9	87.7
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	47,121	75,039	117,996
投資活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	31,073	15,955	16,770
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	34,385	40,704	53,132
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(百万円)	497,471	595,273	577,919

回次		2020年度 第2四半期 連結会計期間	2021年度 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自 2020年7月1日 至 2020年9月30日	自 2021年7月1日 至 2021年9月30日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	99.16	199.96

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、当第2四半期連結累計期間に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社および当社の関係会社)において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

該当事項はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 経営成績

当第2四半期連結累計期間（2021年4月1日から9月30日まで）における当社グループを取り巻く状況につきましては、製造業全般において新型コロナウイルス感染症の影響等で減少していた設備投資が回復し活発に行われるようになりました。一方で、世界的なサプライチェーンにおける半導体等の部品の不足による生産活動への影響が顕在化する等、先行き不透明な状況が続いております。

このようななか、当社グループにおきましては、新型コロナウイルスの感染拡大防止を最優先としつつ、お客様への商品の供給とサービス活動の継続に努めてきました。

当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高が3,514億90百万円（前年同期比52.5%増）、経常利益が1,078億22百万円（前年同期比182.1%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益が786億49百万円（前年同期比179.8%増）となりました。

部門別の事業の概況につきましては、次のとおりです。

F A部門については、CNCシステムの主要顧客である工作機械業界の需要は、中国をはじめとして、各主要市場で堅調に推移しました。これを背景に当社のCNCシステムの売上も増加しました。レーザについては、中国市場および欧州市場で回復基調にありますが、海外メーカーとの厳しい競争が続いています。これらの結果、F A部門の売上高は1,039億68百万円（前年同期比54.2%増）となりました。

ロボット部門については、中国でIT関連、EV、重機、建機向けを中心に売上が堅調に推移しました。米国でも一般産業向けおよびEV関連の需要を取り込んだ自動車産業向けが堅調でした。また、欧州でも一般産業向けが好調に推移し、売上が増加しました。国内では、昨年10月を底に売上は回復しています。これらの結果、ロボット部門の売上高は1,211億71百万円（前年同期比37.6%増）となりました。

ロボマシン部門については、ロボドリル(小型切削加工機)は、パソコン、タブレット市場向けの旺盛な需要を受け、売上が増加しました。ロボショット(電動射出成形機)は、IT関連、医療市場向けの需要が好調に推移し、売上が増加しました。ロボカット(ワイヤ放電加工機)も、IT関連、自動車部品市場向けの需要が好調に推移し、売上が増加しました。これらの結果、ロボマシン部門の売上高は810億69百万円（前年同期比105.5%増）となりました。

サービス部門については、売上が例年並みに回復しています。サービス部門の売上高は452億82百万円（前年同期比27.6%増）となりました。

(2) 財政状態

資産合計は、前年度末比490億97百万円増の1兆6,742億88百万円となりました。

負債合計は、前年度末比18億77百万円増の1,915億14百万円となりました。

純資産合計は、前年度末比472億20百万円増の1兆4,827億74百万円となりました。

(3) キャッシュ・フロー - の状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前年度末比173億54百万円増の5,952億73百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー -)

当第2四半期連結累計期間における営業活動の結果得られた資金は、前年同期比279億18百万円増の750億39百万円であり、これは主に税金等調整前四半期純利益が増加したことによるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー -)

当第2四半期連結累計期間における投資活動の結果使用した資金は、前年同期比151億18百万円減の159億55百万円であり、これは主に定期預金の預入による支出が減少したことによるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー -)

当第2四半期連結累計期間における財務活動の結果使用した資金は、前年同期比63億19百万円増の407億4百万円であり、これは主に配当金の支払額が増加したことによるものです。

(4) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の研究開発費の総額は247億36百万円です。

なお、当第2四半期連結累計期間において当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、新たに締結した経営上の重要な契約等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	400,000,000
計	400,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (2021年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (2021年11月8日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	201,909,397	201,909,397	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100株
計	201,909,397	201,909,397		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2021年7月1日～ 2021年9月30日	-	201,909,397	-	69,014	-	96,057

(5) 【大株主の状況】

2021年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 (自己株式 を除く。)の 総数に対 する所有株 式数の割合 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	41,824	21.80
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8番12号	15,123	7.88
エスエスピーティーシー クライアント オムニバス アカUNT (常任代理人 香港上海銀行東京支店 カ ストディ業務部)	米国・ボストン (東京都中央区日本橋3丁目11番1号)	5,027	2.62
シティバンク エヌエイ エヌワイ アズ ディポジタリー バンク フォー ディポジ タリー シェアホルダーズ (常任代理人 シティバンク エヌ・エイ 東京支店)	米国・ニューヨーク (東京都新宿区新宿6丁目27番30号)	4,698	2.45
ジェーピー モルガン チェース バンク 380055 (常任代理人 株式会社みずほ銀行決済営 業部)	米国・ニューヨーク (東京都港区港南2丁目15番1号)	3,928	2.05
ステート ストリート バンク ウェスト クライアント トリーティー 50523 4 (常任代理人 株式会社みずほ銀行決済営 業部)	米国・ノースクインシー (東京都港区港南2丁目15番1号)	3,102	1.62
株式会社日本カストディ銀行(証券投資 信託口)	東京都中央区晴海1丁目8番12号	2,958	1.54
ガバメント オブ ノルウェー (常任代理人 シティバンク エヌ・エイ 東京支店)	ノルウェー・オスロ (東京都新宿区6丁目27番30号)	2,519	1.31
ジェーピー モルガン チェース バンク 385781 (常任代理人 株式会社みずほ銀行決済営 業部)	英国・ロンドン (東京都港区港南2丁目15番1号)	2,487	1.30
ザ バンク オブ ニューヨーク メロン 1 40044 (常任代理人 株式会社みずほ銀行決済営 業部)	米国・ニューヨーク (東京都港区港南2丁目15番1号)	2,420	1.26
計	-	84,086	43.83

(注) 当社名義の株式10,086千株につきましては、上記の表には含めておりません。

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2021年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 10,085,700		
完全議決権株式(その他)	普通株式 191,119,900	1,911,199	
単元未満株式	普通株式 703,797		
発行済株式総数	201,909,397		
総株主の議決権		1,911,199	

【自己株式等】

2021年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) ファナック株式会社	山梨県南都留郡忍野村忍草 字古馬場3580番地	10,085,700		10,085,700	5.00
計		10,085,700		10,085,700	5.00

(注) 株主名簿上当社名義となっている株式のうち、当社が実質的に所有していない株式はありません。

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(2007年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(2021年7月1日から2021年9月30日まで)および第2四半期連結累計期間(2021年4月1日から2021年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	429,784	450,364
受取手形及び売掛金	128,171	115,129
有価証券	157,000	157,200
商品及び製品	81,253	87,590
仕掛品	52,008	65,054
原材料及び貯蔵品	31,007	42,163
その他	11,253	15,885
貸倒引当金	782	770
流動資産合計	889,694	932,615
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	309,113	318,378
土地	148,389	154,015
その他(純額)	119,344	96,491
有形固定資産合計	576,846	568,884
無形固定資産	9,952	9,298
投資その他の資産		
投資有価証券	109,212	119,762
その他	39,911	44,151
貸倒引当金	424	422
投資その他の資産合計	148,699	163,491
固定資産合計	735,497	741,673
資産合計	1,625,191	1,674,288

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	44,015	38,079
未払法人税等	22,131	26,354
アフターサービス引当金	8,860	8,746
その他	60,112	63,165
流動負債合計	135,118	136,344
固定負債		
退職給付に係る負債	49,379	50,007
その他	5,140	5,163
固定負債合計	54,519	55,170
負債合計	189,637	191,514
純資産の部		
株主資本		
資本金	69,014	69,014
資本剰余金	95,995	96,215
利益剰余金	1,373,018	1,411,994
自己株式	106,008	105,854
株主資本合計	1,432,019	1,471,369
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	16,910	16,252
為替換算調整勘定	4,849	1,103
退職給付に係る調整累計額	18,601	17,336
その他の包括利益累計額合計	6,540	19
非支配株主持分	10,075	11,386
純資産合計	1,435,554	1,482,774
負債純資産合計	1,625,191	1,674,288

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
売上高	230,411	351,490
売上原価	156,680	205,397
売上総利益	73,731	146,093
販売費及び一般管理費	1 41,410	1 52,171
営業利益	32,321	93,922
営業外収益		
受取利息	1,237	908
受取配当金	744	725
持分法による投資利益	4,948	10,445
雑収入	1,173	2,326
営業外収益合計	8,102	14,404
営業外費用		
固定資産撤去費用	265	171
寄付金	330	130
雑支出	1,608	203
営業外費用合計	2,203	504
経常利益	38,220	107,822
特別損失		
在外子会社における送金詐欺損失	-	538
特別損失合計	-	538
税金等調整前四半期純利益	38,220	107,284
法人税、住民税及び事業税	9,159	29,733
法人税等調整額	71	2,776
法人税等合計	9,230	26,957
四半期純利益	28,990	80,327
非支配株主に帰属する四半期純利益	878	1,678
親会社株主に帰属する四半期純利益	28,112	78,649

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
四半期純利益	28,990	80,327
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	5,621	658
為替換算調整勘定	824	200
退職給付に係る調整額	934	1,264
持分法適用会社に対する持分相当額	2,010	6,126
その他の包括利益合計	5,369	6,532
四半期包括利益	34,359	86,859
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	33,333	85,208
非支配株主に係る四半期包括利益	1,026	1,651

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	38,220	107,284
減価償却費	21,725	22,833
貸倒引当金の増減額(は減少)	55	15
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	758	596
退職給付に係る資産の増減額(は増加)	437	1,277
受取利息及び受取配当金	1,982	1,632
持分法による投資損益(は益)	4,948	10,445
売上債権の増減額(は増加)	830	12,953
棚卸資産の増減額(は増加)	1,103	29,959
仕入債務の増減額(は減少)	384	6,055
その他	2,995	3,342
小計	51,271	93,495
利息及び配当金の受取額	5,633	6,578
法人税等の支払額	9,961	25,724
その他	178	690
営業活動によるキャッシュ・フロー	47,121	75,039
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	28,979	9,327
定期預金の払戻による収入	14,345	5,969
有形固定資産の取得による支出	14,627	11,413
その他	1,812	1,184
投資活動によるキャッシュ・フロー	31,073	15,955
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	85	137
配当金の支払額	33,561	39,540
その他	739	1,027
財務活動によるキャッシュ・フロー	34,385	40,704
現金及び現金同等物に係る換算差額	448	1,026
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	17,889	17,354
現金及び現金同等物の期首残高	515,008	577,919
非連結子会社との合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	352	-
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 497,471	1 595,273

【注記事項】

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

当該会計基準の適用が四半期連結財務諸表に及ぼす影響はありません。

なお、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第2四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。

当該会計基準の適用が四半期連結財務諸表に及ぼす影響はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

保証債務

従業員の住宅ローンに対して、次のとおり債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
従業員(住宅ローン)	6百万円	4百万円

(四半期連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費の主要な費目および金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
従業員給料及び手当	11,828百万円	13,797百万円
退職給付費用	1,474百万円	1,820百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
現金及び預金	402,246百万円	450,364百万円
有価証券勘定に含まれる譲渡性預金	126,700百万円	157,200百万円
預入期間が3カ月を超える定期預金	31,475百万円	12,291百万円
現金及び現金同等物	497,471百万円	595,273百万円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年6月26日 定時株主総会	普通株式	33,502 (13,593)	174.65 (70.86)	2020年3月31日	2020年6月29日	利益剰余金

(注) ()内は、うち特別配当

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日
後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年10月29日 取締役会	普通株式	16,867	87.93	2020年9月30日	2020年12月1日	利益剰余金

3. 株主資本の著しい変動

当社は、2020年4月24日開催の取締役会決議に基づき、2020年5月29日付で、自己株式2,109,744株の消却を実施いたしました。この結果、当第2四半期連結累計期間において利益剰余金が22,095百万円、自己株式が22,095百万円それぞれ減少しております。

当第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年6月24日 定時株主総会	普通株式	39,541	206.14	2021年3月31日	2021年6月25日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日
後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年10月27日 取締役会	普通株式	47,192	246.02	2021年9月30日	2021年12月1日	利益剰余金

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自2020年4月1日至2020年9月30日)および当第2四半期連結累計期間(自2021年4月1日至2021年9月30日)

当社グループは、ファクトリーオートメーション(FA)の総合的なサプライヤとして、自動化による生産システムに使用されるCNCシステムとCNCシステムの技術をベースとしたその応用商品の開発、製造、販売を主な事業とする単一業種の事業活動を営んでおります。

当社グループでは、すべての商品に、CNC、サーボモータが使用されていることから、投資の意思決定は、特定の商品の状況だけではなく、すべての商品の受注・売上、製造の状況により判断しております。

このように、当社グループにおいては投資の意思決定を全体で実施し、事業セグメントは単一であるためセグメント情報の記載を省略しております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

当第2四半期連結累計期間(自2021年4月1日至2021年9月30日)

地域別に分解した顧客との契約から生じる収益は以下のとおりであります。

(単位:百万円)

	部門別				合計
	FA	ロボット	ロボマシン	サービス	
国内	23,268	9,466	7,539	10,744	51,017
米州	2,019	41,515	5,707	15,801	65,042
欧州	8,176	28,212	7,513	13,190	57,091
中国	33,827	34,842	47,790	1,792	118,251
アジア(中国以外)	36,181	5,970	12,135	3,287	57,573
その他	497	1,166	385	468	2,516
顧客との契約から生じる収益	103,968	121,171	81,069	45,282	351,490
外部顧客への売上高	103,968	121,171	81,069	45,282	351,490

(注)地域別の売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

収益認識の時期別に分解した顧客との契約から生じる収益は以下のとおりであります。

(単位:百万円)

	部門別				合計
	FA	ロボット	ロボマシン	サービス	
一時点で移転される財又はサービス	103,967	118,339	80,632	38,950	341,888
一定の期間にわたり移転される財又はサービス	1	2,832	437	6,332	9,602
顧客との契約から生じる収益	103,968	121,171	81,069	45,282	351,490
外部顧客への売上高	103,968	121,171	81,069	45,282	351,490

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額および算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	146円55銭	410円03銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(百万円)	28,112	78,649
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(百万円)	28,112	78,649
普通株式の期中平均株式数(千株)	191,824	191,814

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【その他】

第53期(2021年4月1日から2022年3月31日まで)中間配当については、2021年10月27日開催の取締役会において、2021年9月30日の最終の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

配当金の総額	47,192百万円
1株当たりの金額	246円02銭
支払請求権の効力発生日および支払開始日	2021年12月1日

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2021年11月8日

ファナック株式会社
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人 東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 鶴 田 純 一 郎

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 野 口 正 邦

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているファナック株式会社の2021年4月1日から2022年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2021年7月1日から2021年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2021年4月1日から2021年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、ファナック株式会社及び連結子会社の2021年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書

において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。